

学校教育目標		めざす子どもの姿(中期的目標)		総合評価						
よく考え、工夫する子ども 人やものにやさしい子ども 進んで取り組み、やりぬく子ども	笑顔あふれる 中塩田の子 ～一人になれる 一つになれる～			・子どもたちは、感染予防対策をとりながら【目標③:活動や作業に一人でもこつこつ取り組む子】が継続して行えて来ている。一方、新しい生活様式の中でも、自分から挨拶できる姿や体力向上の継続的な向上については、全校体制(職員のアイデア・児童会活動)で取り組んでいく必要がある。いくつかの活動が、感染予防対策を行う中で、実施を見合わせる必要がありできなかった。2学期は、感染予防対策をしながらできる行事や活動を行い、子どもたちの成長が図れるようにしていきたい。						
	今年度の重点目標			成果と課題		A	B	C	D	改善策・向上策
	①	よく聴いて、自分の考えを書ける子(振り返り・ノート)		書く内容を精選し、かける子が多くなった。自分の考えと友の考えを比較・照らし合わせ考えるための聴くことがもう一歩。				○		振り返り時間を確保した授業の改善。書く際の具体的な視点等を示して、考えを言葉にしやすくしていく。
	②	自分から挨拶し、相手を大切に子(温かい言葉・思いやり)		思いやりをもった行動はたくさん見られる。コロナの影響か声を出さない子が多い。				○		全校での取り組み、児童会での取り組みを考える。根気よく教師から挨拶する。温かい言動は大いに認める。
③	活動や作業に一人でもこつこつ取り組む子(黙々活動)		掃除は静かに黙々やっている姿が多い。とりかかりまでに時間がかかることが多い。取り組みに差がある。				○		見直しを持って取り組める活動を展開するようにする。取り組んだ達成感や成就感を味わわせたい。	

領域	対象	評価の観点	成果と課題	A	B	C	D	改善策・向上策	
重点目標	①	A わかりやすい板書	「学習問題」「まとめ」を板書計画に位置付け、一時間の授業の流れが分かる板書を心がけているか。	授業はじめの板書により一時間の授業の流れを理解し、積極的に取り組む姿がみられる。課題が児童の言葉の中から掘ってこよう展開。			○	構造的な板書を心がける。情報量が多くなりすぎないように注意する。対話しながら児童の意識をまとめていく。	
		B 振り返りの時間の確保	1時間で学べた内容や学び方を振り返る時間を確保し、子どもの考えの変容や定着状況を確認しているか。	振り返りが定着している教科がある。振り返りの時間を取ったり、全体で共有する時間がなく終わってしまうことがある。			○	毎時間難しい時は、単元内容の区切りで、振り返りを確保できるようにする。	
		C 家庭学習の充実	家庭学習の手びきをもとに、家庭と連携した家庭学習の充実に努めているか。	個人差が出ているが、頑張っており取り組もうとする姿はある。			○	学習内容の情報共有をし、児童の興味と関心を高める。つむぐの活用や学級懇談会の折に、保護者との連携をしていく。	
	②	D 楽しくはじめある学校生活	「挨拶・返事・靴そろえ・場に応じた姿勢」を大切に、児童会と連携して安全、安心、快適な学校生活に向けて取り組んでいるか。	委員会・係児童が活躍している取り組みは、改善が目覚ましい。声がけにより取り組みが改善されている部分を習慣化していきたい。			○	後期の児童会と連携して、あいさつや廊下歩行について全校で考えたい。姿勢について意識できるよう認める声がけを行う。	
		E 異年齢の友だちとの活動	なかよしタイム、なかよし読書などの異年齢活動を通して、子ども同士が温かい言葉をかけ合い、相手を思いやる意識が高まったか。	コロナウイルス感染拡大防止のため実施を見合わせできた。					コロナウイルス感染拡大予防策をとりながら、活動を行えるようにしていく。
		F 交流活動の充実	地域の方々や園児・福祉施設の方々との交流活動に児童が楽しんで関わり合えるよう取り組んだか。	コロナウイルス感染拡大防止のため実施を見合わせできた。					コロナウイルス感染拡大予防策をとりながら、活動を行えるようにしていく。
	③	G よく考え行動する児童の育成	よく話を聴き、深く考え、自ら気づいて行動する気持ちを高めたか。	静かに話が聞ける姿がある。受け身の子が多い。気づいていても行動に移すことを躊躇する姿があり、自らが課題意識を持って、取り組めるようにしたい。			○		自主的な活動、創造的な学習を位置づけ、子どもたちの自立を促し自信が持てる声がけを行っていく。
H 体力向上の継続的な活動		マラソンや縄跳びを取り上げ、進んで継続的に体力向上に向けた活動ができるよう指導を工夫できたか。	コロナウイルス感染拡大防止のため制限がある中でも、運動に対する意欲ある子どもたちの姿がある。年間を通して体力向上への取り組みが課題。			○		全校体制で、目標をもって取り組める活動を感染予防策をとりながら進める。柔軟性や体幹を鍛える運動を全校に広めていく。	
I 仕事に対する意識の醸成		清掃活動や当番活動・係活動、花壇での花作り等を通して、役割を担うことの大切さや仕事に対する意識を醸成したか。	多くの児童が草取り、清掃などまじめに取り組む、きれいにできた実感も持っていることが多い。			○		児童が活躍できる係活動を位置付けていく。互いに努力している頑張っている良さを共有できる人間関係の育成を図っていく。	
学校運営	地域との連携	J 学校支援ボランティアとの連携	地域ボランティアとの連携を通して、読書・学習・体験活動・交通安全に対する意識を高めたか。	チャレンジタイムは、学習ボランティアの方に入っていたことで、意欲的に学習を進めている姿が見られる。			○	学習面以外でも地域の人材を活用して子どもたちの意欲を高めていきたい。	
	学習指導	K 授業のユニバーサルデザイン化	一人一人の子どもにもわかりやすい授業となるように、学習環境を整えることができたか。	視覚支援と肯定的な声がけが心がけられた。具体物の提示や操作活動から、紙面の学習でもイメージを持って学習に取り組めるようになってきた。			○	デジタル教科書、実物投影機を使って分かりやすく説明できるようにする。視覚支援を工夫し、わかりやすい板書を心がけていく。	
	研修	L 職員研修の充実	子どもから学び、子どものための授業のために、教職員が互いの実践に学び合いながら研修し、授業に生かすことができたか。	UD化授業研究会を継続することで、様々な教科や学年の授業の様子を知ることができている。一方、授業があると参観して学ぶ時間を確保することが難しい。			○	教職員の情報交換の場を積極的に設けながら、現状の課題を把握し改善方法を互いに話題にしていけるようにする。	
	生徒指導	M いじめへの対処	子どもから学び、子どものための授業に生かすことができたか。	情報を得た時点で、関係職員間で連携して取り組むことができた。日常生活の様子、アンケートやつむぐから子どもたちの思いをより丁寧に受け止める。			○	相談しやすい児童との関係づくり・職員間の関係づくりを継続していけるように、人権感覚を磨く研修を定期的に行う。	